

## 研究教育業績（2014-2018 年度）

### I. 研究業績

#### 1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Makino K., Takeichi O., Imai K., Inoue H., Hatori K., Himi K., Saito I., Ochiai K., and Ogiso B., Porphyromonas endodontalis reactivates latent Epstein-Barr virus. *Int Endod J*, **51**, 1410-1419 (2018)
- 2) Saruta J., To M., Sugimoto M., Yamamoto Y., Shimizu T., Nakagawa Y., Inoue H., Saito I., and Tsukinoki K., Salivary Gland Derived BDNF Overexpression in Mice Exerts an Anxiolytic Effect. *Int J Mol Sci*, **18**, E1902, (2017)
- 3) Tsuboi H., Hagiwara S., Asashima H., Takahashi H., Hirota T., Noma H., Umehara H., Kawakami A., Nakamura H., Sano H., Tsubota K., Ogawa Y., Takamura E., Saito I., Inoue H., Nakamura S., Moriyama M., Takeuchi T., Tanaka Y., Hirata S., Mimori T., Matsumoto I., and Sumida T., Comparison of performance of the 2016 ACR-EULAR classification criteria for primary Sjogren's syndrome with other sets of criteria in Japanese patients. *Ann Rheum Dis*, **76**, 1980-1985, (2017)
- 4) Inoue H., Kishimoto A., Ushikoshi-Nakayama R., Hasaka A., Takahashi A., Ryo K., Muramatsu T., Ide F., Mishima K., Saito I. Resveratrol improves salivary dysfunction in a non-obese diabetic (NOD) mouse model of Sjögren's syndrome. *J. Clin. Biochem. Nutr.* **59**, 107-112, (2016)
- 5) Kusakabe Y., Shindo Y., Kawai T., Takahashi Y., Koori M., Inoue H., Saito I.: Sex-Based Differences in Smgc Expression in the Submandibular Gland of C57BL/6 Mice. *Pathobiology*, **83**, 287-294, (2016)
- 6) Takahashi A, Inoue H, Mishima K, Ide F, Nakayama R, Hasaka A, Ryo K, Ito Y, Sakurai T, Hasegawa Y, Saito I. Evaluation of the effects of quercetin on damaged salivary secretion. *PloS one*. **10**, e0116008, (2015)
- 7) Kikuchi K, Ishige T, Ide F, Ito Y, Saito I, Hoshino M, Inoue H, Miyazaki Y, Nozaki T, Kojima M, Kusama K. Overexpression of activation-induced cytidine deaminase in MTX- and age-related Epstein-Barr virus-associated B-cell lymphoproliferative disorders of the head and neck. *J Oncol*. 2015, 605750, (2015)

#### 2. 主な学会発表

[国際学会]

- 1) The molecular mechanism of salivary dysfunction amelioration by calorie restriction Hiroko Inoue, Kenji Mishima, Takahiko Shimizu, Motoko Kawashima, Ayaka Hasaka, Kazuo Tsubota, Ichiro Saito 17<sup>th</sup> Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International 2014 March 23-26 Kyoto International Conference Center

[国内学会]

- 1) 中山亮子, 金子三恵, 梁洪淵, 山崎智恵, 藤井健志, 松本直行, 井上裕子, 斎藤一郎 還元型 CoQ10 によるドライマウス予防効果の検討 第 18 回 日本抗加齢医学会 5 月, 大阪 (2018)
- 2) 山崎智恵, 白根和明, 中山亮子, 松本直行, 菅野智子, 金子三恵, 井上裕子, 斎藤一郎 乳酸菌(EF2001) のカンジダ抑制効果と口腔カンジダ症の改善の検討 第 18 回 日本抗加齢医学会 5 月, 東京(2018)
- 3) 坪井洋人, 萩原晋也, 浅島弘充, 高橋広行, 廣田智哉, 野間久史, 梅原久範, 川上純, 中村英樹, 佐野統, 坪田一男, 小川葉子, 高村悦子, 斎藤一郎, 井上裕子, 中村誠司, 森山雅文, 竹内勤, 田中良哉, 平田信太郎, 三森経世, 松本功, 住田孝之 2016 年アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会一次性シェーグレン症候群新分類基準の日本人患者における検証: 従来の 3 つの診断基準・分類基準との比較 第 26 回日本シェーグレン症候群学会学術集会 9 月, 東京 (2017)
- 4) 中山亮子, 井上裕子, 金子三恵, 梁洪淵, 伊藤正孝, 斎藤一郎 早期閉経モデルマウスを用いた唾液分泌障害におけるミトコンドリアの解析 第 17 回 日本抗加齢医学会 6 月, 東京 (2017)
- 5) 金子三恵, 梁洪淵, 高橋啓, 小野博之, 小笠原智彦, 阿部道郎, 井上裕子, 斎藤一郎 ドライマウス患者に対する花椒オイル含有カプセル型食品の唾液分泌効果の検討 第 15 回 日本抗加齢医学会 5 月, 福岡 (2015).
- 6) 井上裕子, 中山亮子, 斎藤一郎 Epstein-Barr (EB) ウイルスの小 RNA EBER による自己免疫応答誘導の可能性の検討 第 24 回日本シェーグレン症候群学会学術集会 9 月, 新宿 (2015).
- 7) 井上裕子, 美島健二, 清水孝彦, 村松敬, 伊藤由美, 梁洪淵, 井出文雄, 斎藤一郎: カロリー制限による唾液分泌能改善効果の分子機構の解明. 第102回日本病理学会総会 6月, 札幌 (2013)
- 8) 高橋絢子, 中山亮子, 葉阪彩加, 伊藤由美, 梁洪淵, 櫻井孝, 栗原毅, 井出文雄, 美島健二, 井上裕子, 斎藤一郎: 唾液分泌障害に対するケルセチンの効果の検討 第 14 回抗加齢医学会総会 6 月 6 日~8 日 大阪国際会議場 (2014)
- 9) 高橋絢子, 井上裕子, 美島健二, 伊藤由美, 梁洪淵, 櫻井孝, 井出文雄, 斎藤一郎: 唾液分泌障害に対するケルセチンの効果の検討 第 103 回日本病理学会総会 4 月 24 日~26 日 広島国際会議場 (2014)

#### シンポジウム

- 1) 井上裕子 分泌機能促進因子の検討 第 14 回抗加齢医学会総会 6 月 6 日~8 日 大阪国際会議場 (2014)
- 2) 井上裕子 EBV の再活性化とシェーグレン症候群 第 23 回日本シェーグレン症候群学会学術集会 9 月 12 日~13 日, ホテルニュー長崎 (2014)

### 3. その他特筆すべき研究業績

[研究費獲得]

- 1) 井上裕子 (代表) 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C 一般, 加齢に伴うヘルペスウイルス関連疾患の成立機序とその制御に関する検討 (2016-2018)
- 2) 井上裕子 (分担) 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C 一般, 唾液腺特異的傷害モデルマウスの作出と EGFR2/MUC1 経路による修復機構の解明 (2017-2019)
- 3) 井上裕子(分担) 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C 一般, エストロゲンによるミトコンドリアを介した唾液分泌制御機構の解明 (2015-2017)
- 4) 井上裕子 (分担) 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 B 一般, カロリー制限研究からの知見を応用した唾液分泌障害に対する新規治療基盤の確立 (2015-2017)

- 5) 井上裕子 (分担) 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C 一般, 高含有大豆イソフラボン代謝産物を用いた口腔乾燥症に対する効果とその作用機序の検討 (2014-2016)
- 6) 井上裕子 (分担) 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C 一般, ヒト歯髄細胞を用いた自己免疫性唾液腺炎の発症機構の解析と治療法の検討 (2013-2015)
- 7) 井上裕子 (代表), 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 C 一般, EB ウイルス由来小 RNA EBER を介した自己免疫応答誘導の可能性の検討 (2012-2014)

## II. 教育業績

### 1. 担当授業科目

#### 2018 年度 (平成 30 年度)

疾病と治療薬 I (ス 2 年), 免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節疾患と薬 (3 年生),

基礎実習: 薬理・薬物治療実習 (3 年生), 薬剤師の使命 (1 年生)

演習: 薬学演習 I (4 年生, 2 コマ), 薬学演習 II (6 年生, 4 コマ), 薬学演習 IB 特別補習 (4 年生, 1 コマ)

実務系教育: 実務事前学習総合実習 (4 年生, 2 コマ)

#### 2017 年度 (平成 29 年度)

疾病と治療薬 I (ス 2 年), 免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節疾患と薬 (3 年生),

薬物治療学 IIB (4 年生)

基礎実習: 薬理・薬物治療実習 (3 年生)

演習: 薬学演習 I (4 年生, 3 コマ), 総合薬学勉強会 (5 年生, 3 コマ), 薬学演習 II (6 年生, 5 コマ), 薬学演習 IB 特別補習 (4 年生, 1 コマ)

実務系教育: プレ教育 (4 年生, 4 コマ)

#### 2016 年度 (平成 28 年度)

薬物治療学 IIIB (4 年生), 疾病と治療薬 I (ス 2 年生), 疾病と治療薬 II (ス 2 年生),

基礎実習: 医療系実習 (3 年生), 薬理系実習 (3 年生)

演習: 薬学演習 I (4 年生, 2 コマ), 総合薬学勉強会 (5 年生, 4 コマ), 薬学演習 II (6 年生, 4 コマ)

実務系教育: 体験 (1 年生, 1 コマ), プレ教育 (4 年生, 2 コマ)

#### 2015 年度 (平成 27 年)

病態解析学 (6 年生), 疾病と治療薬 I (ス 2 年), 疾病と治療薬 II (ス 2 年生),

疾病と治療薬 III (ス 3 年生, 5 コマ)

基礎実習: 医療系実習 (3 年生), 薬理学実習 (3 年生), 薬剤師の使命 (1 年生, 1 コマ)

演習: 薬学演習 I (4 年生, 3 コマ), 総合薬学勉強会 (5 年生, 3 コマ), 薬学演習 II (6 年生, 3 コマ)

実務系教育: プレ教育 (4 年生, 4 コマ)

#### 2014 年度 (平成 26 年)

病態解析学 (6 年), 微生物薬品学 (3 年), 疾病と治療薬 II (ス 2 年)

基礎実習: 衛生 (3 年生), 薬理 (3 年生)

演習: 薬学演習 I (4 年生, 3 コマ), 総合薬学勉強会 (5 年生, 2 コマ),

薬学演習 II (6 年生, 5 コマ), 演習 (卒延生, 1 コマ)

2013年度（平成25年）

病態解析学（6年生）、生体の構造と働き（ス1年生）

基礎実習：衛生（3年生）、薬理（3年生）

演習：薬学演習Ⅰ（4年生、2コマ）、薬学演習Ⅱ（6年生、1コマ）

## 2. その他特筆すべき教育業績